

think
re
design
value

The Road to Circularity



はじめに

- 3 USMのサステナビリティ
- 4 2021-2022ハイライト

5 ビジョン、ゴール、ロードマップ

- 6 当社のビジョン
- 6 ゴールとターゲット
- 7 ロードマップ

8 排出ガス

- 9 概観
- 10 カーボンフットプリント
- 12 排出ガス削減

13 責任ある製造

- 14 概観
- 15 製造の焦点
- 15 サプライチェーン
- 16 認証
- 17 資材の透明性

18 人材

- 19 概観
- 20 雇用主としての責任
- 21 地域における責任

22 サーキュラリティ

- 23 概観
- 24 完全なサーキュラリティ
- 26 ケーススタディ：
家族のニーズに合わせた変化

28 USMについて

- 31 用語集



USMのサステナビリティ

1965年にモジュラーファニチャーのデザインと製造を開始して以来、サーキュラーデザインの多くの面が**当社の精神の一部**となっています。適応性や耐久性といった核となるデザインの原則は、製品の持続可能性に対するUSMのアプローチの基礎です。企業レベルでは、当社は過去20年以上にわたり、高効率型の粉体塗装工場、バイオマスエネルギー、屋上太陽光パネル、電気自動車、LED照明などの取り組みを通じて、稼働中の排出ガスを削減するために多額の投資を行ってきました。

当社は完全なサーキュラービジネスを目指しており、潜在的な耐用年数全体にわたり利用可能な製品を、エネルギー、水、資源の効率が高く、温室効果ガスの排出を最小限に抑えた方法で製造しています。責任ある方法でこれを追求するために、パリ協定の目標に沿って排出量を削減するべく、USMはScience Based Targetsイニシアチブに参加しています。また、当社は製造プロセス全体を通じてサーキュラー原則を確実に順守するために、主要な製品にCradle to Cradle Instituteの認証を受けています。

当社は2021年から2022年にかけて、製品1kgあたりの総炭素排出量を1.4%削減しました。稼働中の排出量（スコープ1および2）を科学に基づいた目標よりもさらに削減することに成功しました。しかしながら、総排出量とバリューチェーン（スコープ3）の排出量は増加しました。これは主に生産資材によるもので、2022年の排出量の76%を占めました。この問題に対処するために、2022年に数回、CO₂削減スチールを使用した試験的な取り組みを実施しました。この取り組みは成功し、2024年1月からスチールの20%にこれを使用する契約を締結しました。当社はまた、北米およびアジアへの製品の航空輸送を削減するポリシーを導入したり、車両の電動化を促進したり、一部のモジュラーパーツに使用される材料を削減する試験を行ったりしています。

収益を生産と排出から分離するという長期的な目標の一環として、当社はサーキュラービジネスモデルの試験運用を実施しています。これは、再利用、改修、再製造などお客様に最適なサービスを提供する方法を知るのに役立ちます。**サーキュラリティはUSMの大きな原動力であり、主力のモジュラーファニチャーシリーズは、新しい用途やユーザーのために継続的に再適応できる可能性を秘めています。**当社は現在、事業全体を通じて、サーキュラリティを製品の一部から全社的な焦点にするために必要な知識、考え方、プロセスの改善に注力しています。

Alexander Schärer

Chairman of the Board and Co-Owner of USM

Dr. Judith Stuber-Schärer

Member of the Board and Co-Owner of USM

Andreas Soliva

Vice President of the Board



ビジョン、戦略、ロードマップ

- サークュラリティを高め、科学に基づいた目標を達成するための主要プロジェクトのロードマップを定義
- 目標設定とデータ収集を行う4つの主要な焦点分野を策定（排出ガス、責任ある製造、人材、サーキュラリティ）
- USMの最初のサステナビリティレポートを発表

排出ガス

- 1kgあたりの排出量を1.4%削減
- 稼働中の排出量（スコープ1および2）を5.8%削減
- Science Based Targetsイニシアチブに沿って、温室効果ガス排出削減のための科学に基づいた目標を策定
- 1616 m²以上の太陽光パネルを設置

責任ある製造

- 材料パイロットプロジェクトの一環として、2022年下半期の生産で1,600トンのCO₂削減スティールを使用

人材

- 全従業員にサステナビリティ研修を実施
- サステナビリティのための社内ナレッジハブを作成
- 初代サステナビリティ担当ディレクターを任命

サーキュラリティ

- サークュラービジネスモデルのレビューを完了
- 多数の試験プロジェクトを計画

Highlights 2021-2022

ビジョン、ゴール、 ロードマップ

Dr. Thomas Dienes
Sustainability Director
USM Group

「サステナビリティのためのビジョンとロードマップを策定する際に、パートナーや顧客だけでなく、全従業員の参加を奨励できたのは非常に喜ばしいことです。当社は現在、実施段階に移行しており、全員が責任を負い、協力し、可能な限り自分の役割を果たすことが必要であるため、この参加は不可欠なものです。そして、足並みの揃った動きがすでに始まっていることを嬉しく思います。これにより、科学に基づいた目標を達成し、完全なサーキュラービジネスを実現できるでしょう。」



当社のビジョン

サステナビリティに対するUSMのビジョンは、完全サーキュラービジネスを実現することです。当社は、潜在的な耐用年数全体にわたり利用可能な製品を、エネルギー、水、資源の効率が高く、温室効果ガスの排出を最小限に抑えた方法で製造することを目指しています。

ゴールとターゲット

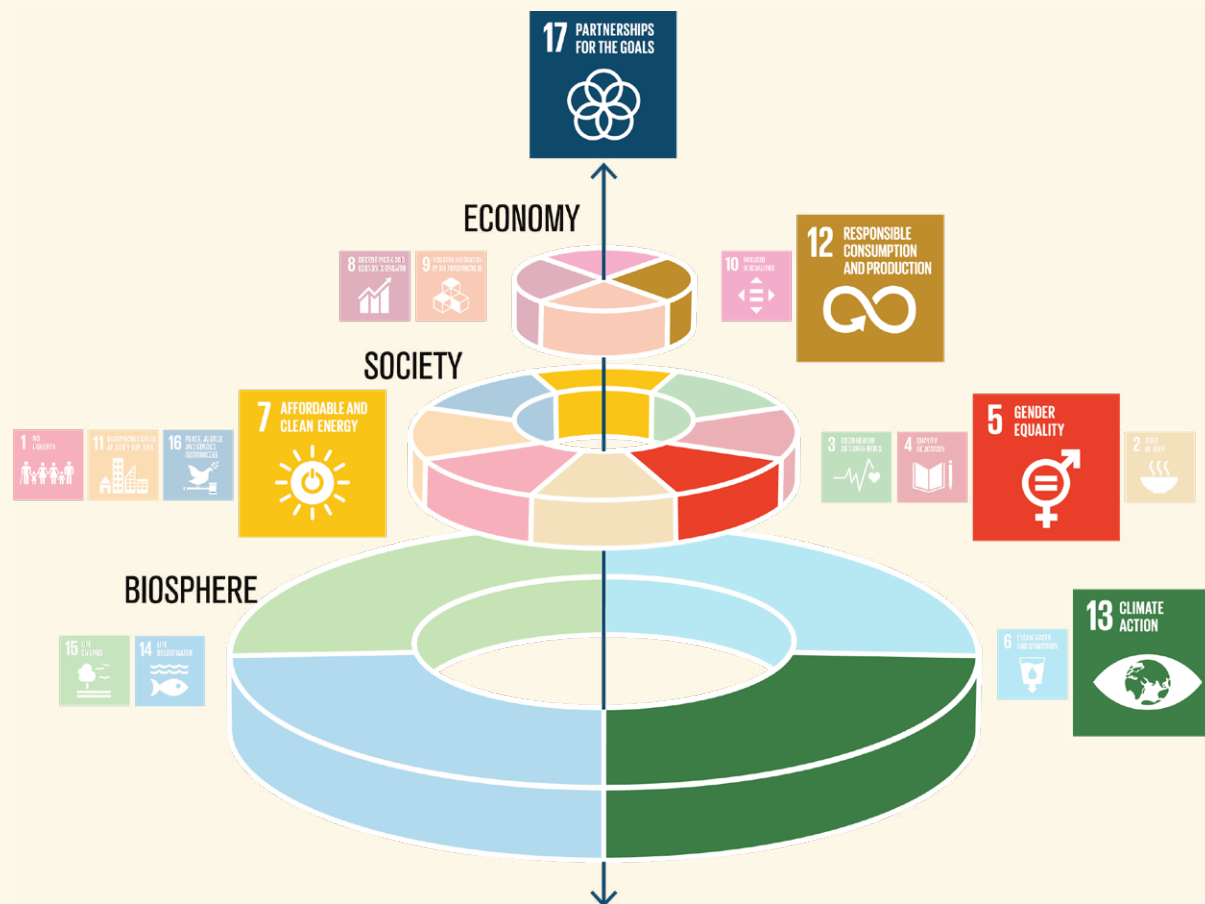
国連の持続可能な開発目標

USMのビジョンと目標は、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に沿ったものです。当社にとって最も重要な目標は、つくる責任、つかう責任 (SDG 12) です。副次的な目標は、ジェンダー平等を実現しよう (SDG 5)、エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (SDG 7)、気候変動に具体的な対策を (SDG 13) およびパートナーシップで目標を達成しよう (SDG 17) です。当社独自の優先度に照らしてSDGsを見直した結果、最初のレポートで提示した4つの焦点分野、サーキュラリティ、責任ある製造、人材、排出ガス、を決定しました。

科学に基づいた目標

2021年、USMはScience Based Targetsイニシアチブに取り組み、2022年、2021~2030年までの期間に排出ガスをどれだけ削減するかを概説する目標を策定しました。

科学に基づいた目標とその達成計画について詳しくは、次のページのロードマップと、排出ガスをご覧ください。



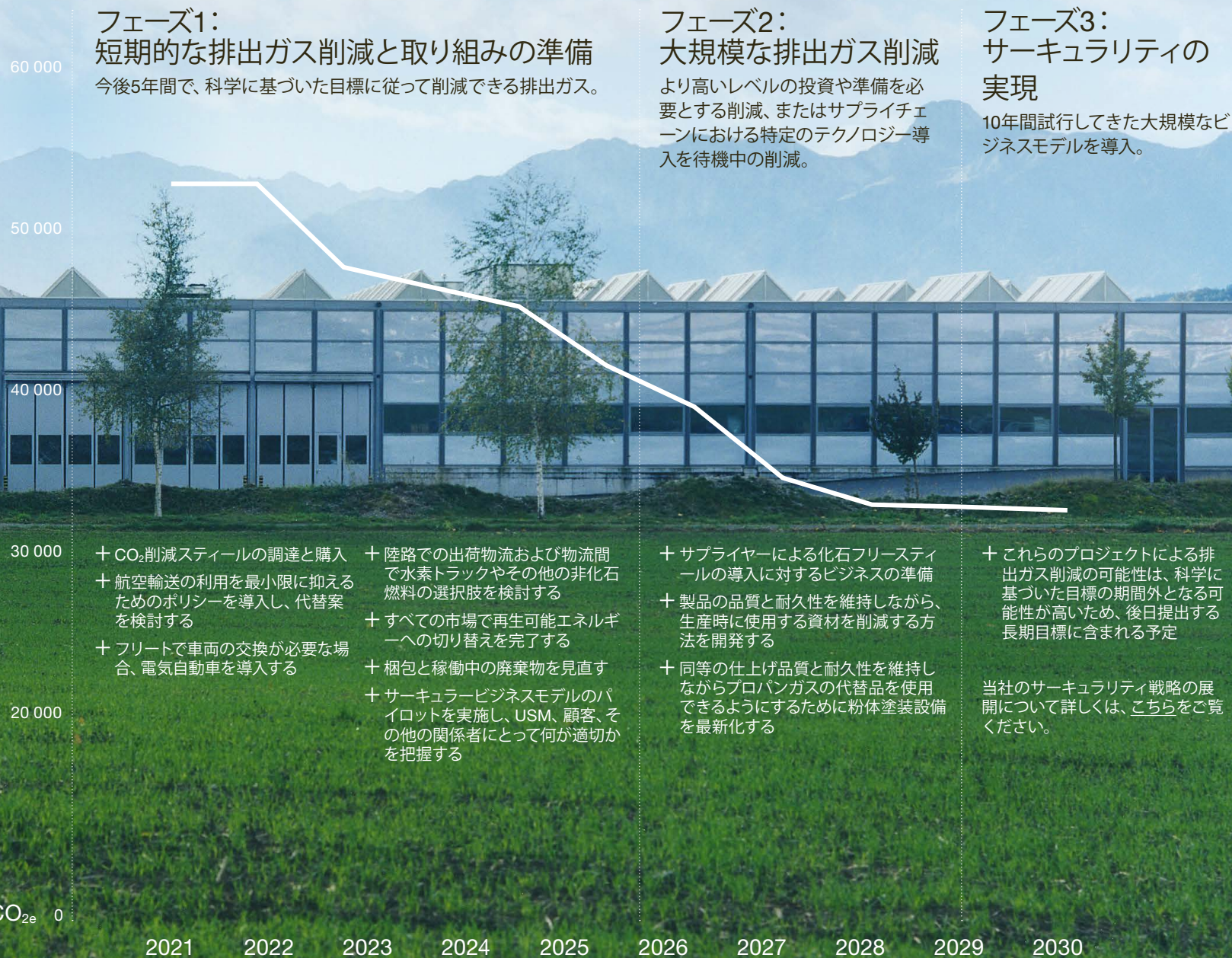
当社のサステナビリティへの取り組みは、排出ガス、製造、人材、サーキュラリティという4つの主要分野に焦点を当てています。これらは当社が現在の年次サステナビリティレポートで取り上げている4つの分野です。

Jerker Lokrantz/Azoteによるグラフィックス。
Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.



ロードマップ

今後10年間のプロジェクト*のロードマップの原動力は、科学に基づいた目標と完全なサーキュラービジネスの実現というビジョンです。



*年次レビューの対象

排出ガス



Damon Hector
Logistics Coordinator
USM New York, USA

「二酸化炭素排出量のトラッキングを開始して以来、排出のホットスポットを把握できたのが興味深かったです。物流では、輸送を効率的に実施し、最短かつ最小限のルートを使用するよう努めています。結果が出ているのがわかると嬉しいものです。」



CO₂トン換算の主要数値

長期目標

科学に基づいた目標に沿って温室効果ガスの排出を削減する。

	2021	2022
企業としての 総カーボンフ ットプリント	53 135	56 427
スコープ1* 排出ガス	2 151	2 363
スコープ2* 排出ガス	1 292	882
スコープ3* 排出ガス	49 693	53 182
製品1kgあた りの CO _{2e} (Kg) **	4.32	4.26

生産される製品の重量は7.7%増加
総排出ガスは6.2%増加
排出量の76%を生産資材が占める
排出量の9.7%を上流および下流の輸送
が占める

概観

* p. 10に記載のスコープ1~3の説明を参照。
** 企業としての二酸化炭素排出量を製品の総重量（梱包材を除く）で割ったもの。



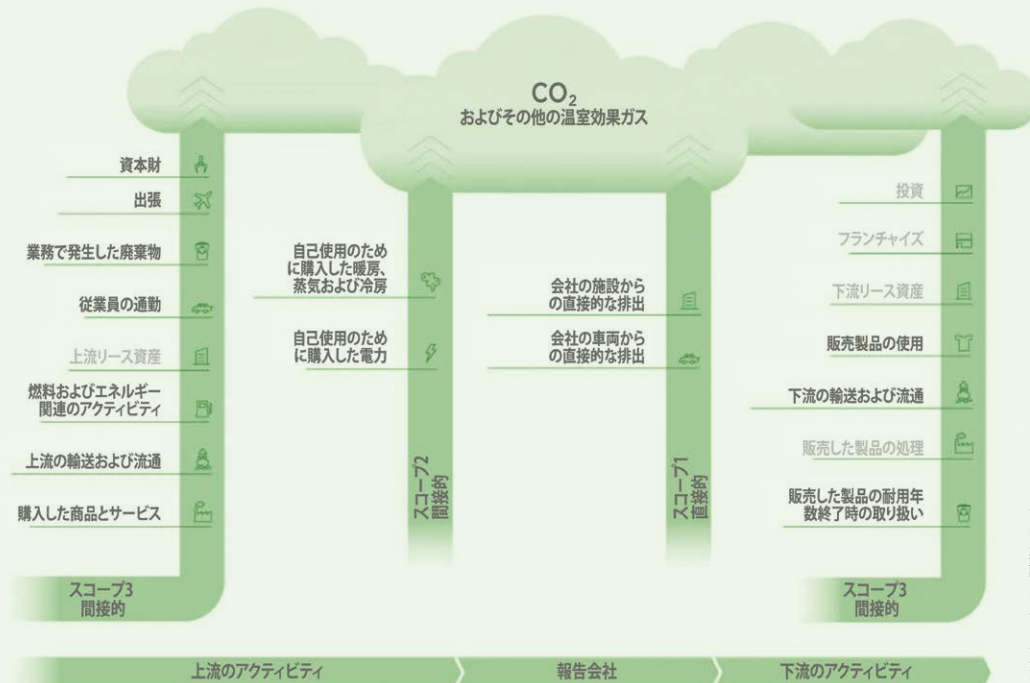
多くのメーカーと同様、当社の排出量の大部分はバリューチェーン内で発生します(スコープ3の94%)。その他は当社の稼働における排出量です(4%がスコープ1、2%がスコープ2)。当社の最も大きな排出源は、生産資材(76%)と上流および下流の輸送(10%)です。

2021年から2022年にかけて、世界的なパンデミック後に主要材料を補充する必要があったことにより、当社の総炭素排出量は6%増加しました。当然ながら、物流による排出ガスや従業員の通勤も増加しました。総排出量の増加はスコープ3によるもので、スコープ1と2の合計は減少しました。

GHGプロトコルのカテゴリ別のUSMの排出ガスを網羅した表は、次のページでご覧いただけます。

カーボンフットプリント

USMでは、Greenhouse Gas (GHG)プロトコルに従って炭素排出量を測定し、バリューチェーン(スコープ3)と稼働中の排出量(スコープ1および2)をカバーしています。ClimatePartnerの協力のもと、USMの本社、生産と組立、USM直営のショールーム、および700以上のサードパーティ小売業者を対象とした完全な年次炭素監査を実施しています。



*適用外

簡潔にCO₂またはCO_{2e}と表記します。USMの炭素監査は、GHGプロトコルの企業基準に基づきます。この基準は、京都議定書の対象となる7種類の温室効果ガス、二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、亜酸化窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)、六フッ化硫黄(SF₆)、および三フッ化窒素(NF₃)の会計と報告を対象としています。出典: GHGプロトコル

出典: www.climatepartner.com

- + 生産資材(スチールが最上位)
- + 上流および下流の輸送
- + 熱(自社生成および購入)
- + 資本財
- + 従業員の通勤



排出ガスのカテゴリ	2021		2022		2021年/2022年の比較	
	[tCO _{2e}]	[%]	[tCO _{2e}]	[%]	[tCO _{2e}]	[%]
スコープ1	2,150.51	4.0	2,362.63	4.2	212.12	9.9%
社内施設からの直接排出	1,614.74	3.0	1,645.18	2.9	30.44	1.9%
熱 (自社生成)	1,557.69	2.9	1,593.55	2.8	35.86	2.3%
冷媒漏れ	57.05	0.1	51.63	0.1	-5.42	-9.5%
社用車からの直接排出	535.77	1.0	717.45	1.3	181.68	33.9%
フリート	535.77	1.0	717.45	1.3	181.68	33.9%
スコープ2	1,291.65	2.4	881.66	1.6	-409.99	-31.7%
自社利用のために購入した電力	636.81	1.2	604.49	1.1	-32.32	-5.1%
電力 (定常)	636.81	1.2	604.49	1.1	-32.32	-5.1%
電力 (フリート)	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0%
自社利用のために購入した加熱、蒸気、冷却	654.83	1.2	277.17	0.5	-377.66	-57.7%
熱 (購入)	654.75	1.2	277.11	0.5	-377.64	-57.7%
購入した冷却	0.08	0.0	0.05	0.0	-0.03	-37.5%
スコープ3	49,692.63	93.5	53,182.42	94.3	3,489.79	7.0%
購入した商品およびサービス	41,180.79	77.5	43,821.09	77.7	2,640.30	6.4%
生産資材および消耗品	40,556.20	76.3	42,868.53	76.0	2,312.33	5.7%
梱包資材	519.70	1.0	752.36	1.3	232.66	44.8%
印刷製品	48.91	0.1	124.90	0.2	75.99	155.4%
外部で計算されたサービス排出ガス	29.76	0.1	23.25	0.1	-6.51	-21.9%
オフィス用紙	14.39	0.0	14.48	0.0	0.09	0.6%
水	11.81	0.0	37.56	0.1	25.75	218.0%
外部データセンター	0.01	0.0	0.01	0.0	0.00	0.0%
資本財	1,246.60	2.3	1,820.47	3.2	573.87	46.0%
資本財	1,246.60	2.3	1,820.47	3.2	573.87	46.0%
燃料およびエネルギー関連の活動	517.17	1.0	471.58	0.8	-45.59	-8.8%
上流の排出ガス 熱	319.53	0.6	253.50	0.4	-66.03	-20.7%
上流の排出ガス 電力	133.79	0.3	148.01	0.3	14.22	10.6%
上流の排出ガス フリート	63.05	0.1	70.07	0.1	7.02	11.1%
上流の排出ガス 冷却	0.80	0.0	0.00	0.0	-0.80	-100.0%
上流の輸送と流通	1,620.85	3.1	3,569.13	6.3	1,948.28	120.2%
その他の上流の輸送	631.04	1.2	2,474.44	4.4	1,843.40	292.1%
インバウンド物流	590.58	1.1	695.46	1.2	104.88	17.8%
上流の保管	399.23	0.8	399.23	0.7	0.00	0.0%
稼働において生成された廃棄物	69.82	0.1	50.73	0.1	-19.09	-27.3%
稼働廃棄物	65.48	0.1	48.80	0.1	-16.67	-25.4%
処分施設への輸送	4.34	0.0	1.92	0.0	-2.42	-57.1%
出張	67.53	0.1	243.18	0.4	175.65	260.1%
航空	58.50	0.1	231.96	0.4	173.46	296.5%
鉄道	7.08	0.0	7.83	0.0	0.75	10.6%
レンタカー・自家用車	1.94	0.0	3.39	0.0	1.45	74.7%
従業員の通勤	886.84	1.7	849.26	1.5	-37.58	-4.2%
従業員の通勤	797.70	1.5	803.72	1.4	6.02	0.8%
ホームオフィス	89.14	0.2	45.54	0.1	-43.60	-48.9%
下流の輸送と流通	3,695.93	7.0	1,916.26	3.4	-1,779.67	-48.2%
アウトバウンド物流	3,695.93	7.0	1,916.26	3.4	-1,779.67	-48.2%
販売した製品の利用	208.12	0.4	206.63	0.4	-1.49	-0.7%
電力	208.12	0.4	206.63	0.4	-1.49	-0.7%
販売した製品の廃棄処理	198.98	0.4	234.09	0.4	35.11	17.6%
製品の処分	186.40	0.4	215.99	0.4	33.35	17.7%
廃棄製品の処分施設への輸送	12.57	0.0	18.11	0.0	1.76	16.6%
総合結果	53,134.78*	100.0	56,426.71**	100.0	3,291.93	6.2%

*この数値には、GHGプロトコルに従って算出される、スイスにおける生物由来の1,224 kgのCO₂排出は含まれません。 出典：www.climatepartner.com
**この数値には、GHGプロトコルに従って算出される生物由来の941 tのCO₂排出は含まれません。 出典：www.climatepartner.com



排出ガス削減

責任ある炭素削減計画を策定するために、USMは2021年に Science Based Targetsイニシアチブに参画しました。私たちの目標は以下の通り確認されています。

USM U. Schärer Söhne AGは、スコープ1および2のGHG排出ガスの絶対量を、2021年を基準として2030年までに42%削減するよう取り組みます。*

USM U. Schärer Söhne AGはさらに、同期間でスコープ3のGHG排出ガスの絶対量を25%削減するよう取り組みます。

スコープ1と2の総排出量の削減は、2021年から2022年にかけて目標をわずかに上回り達成されました。削減を進めるために、私たちは次の目標を掲げています。

- 2024年末までに再生可能電力への移行を完了する
- 2027年までにドイツ国内のオフィスで太陽光発電パネルの利用を拡大する
- 2029年までにフリートを電動化する
- 新しい粉体塗装設備の導入により、プロパンガスの使用量を削減する。これは現在計画段階にあり、具体的な目標は決定次第公開されます。

当社のスコープ3排出ガスは資材の購入に強く関連しており、2022年にはバリューチェーンの排出ガスが7%増加しました。当社は、2025年からスコープ3を削減するための取り組みを準備していますが、その一部はサプライチェーンに依存しています。遅れが出るリスクを軽減するため、当社のスコープ3削減計画には、以下のような社内プロジェクトと社外プロジェクトの組み合わせが含まれています。

- 2024年から、供給量の20%をCO₂削減スティールに投資する
- 2024年までにアジアと北米で航空貨物および在庫のポリシーを採用する
- 2025年から梱包におけるリサイクル資材の使用を増やす
- 2026年までに物流に水素または電気トラックを導入する
- 2027年から特定のモジュラーパーツに必要なスティールの量を削減する
- 鉄鋼業界で非化石鉄鋼が利用可能になった場合、その供給に向けたビジネスの準備を整える (2027年中を予想)

当社は、科学に基づいた目標の進捗状況を年次サステナビリティレポートで共有します。



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

*目標とする数値には、土地由来の排出量とバイオエネルギー原料からの除去量が含まれます。

責任ある製造

John Barcia
Head of Assembly

Edgar Barcia
Residential Sales Manager/IT Support
USM New York, USA

「USMの家具は、製品からの廃棄物を減らすよう手作業で仕上げられ、オーダーメイドで作られています。また、可能な限り再利用を推進しています。この情熱を、私のチームと、当社でともに働く息子にも伝えています。」 John Barcia



概観

長期目標

製造における当社の長期的ビジョンは、環境への影響と廃棄物を最小限に抑えながら、従業員のために最高水準の安全性と快適性を維持することです。

重要な指標

70%
スイスのサプライヤー

0.15%
労働災害による欠勤率



製造における焦点

責任ある製造という考えは、USMの中核をなします。これは全社の意思決定に通底しています。生産拠点を移転すればコスト削減につながるとしてもスイスでの製造を続ける、という決定もその一例です。原則から実際のプロセスに至るまで、製造のあらゆる部分を見直し続けることが求められています。2021年と2022年の焦点は、CO₂削減スチールの使用を試験的に導入し、サプライヤーと協力して資材の透明性をさらに高め、Cradle to Cradle認証を更新することでした。



サプライチェーン

当社はサプライチェーンを可能な限りローカルに保つことで、輸送を最小限に抑え、原材料の品質を管理し、透明性を維持するよう努めています。当社は国際労働機関 (ILO)、労働における基本的原則及び権利の宣言、ILO中核的労働基準、および国連世界人権宣言に則り、すべてのサプライヤーに対し、安全な作業環境の提供と人権の保護を要求します。また、2015年英国現代奴隷法に基づいて、独自の現代奴隷制度に関する声明を作成中です。

工場は我々の大きな誇りであり、それを進化させ続ける能力は、変化するニーズに柔軟に対応して生産慣行を維持するのに役立ちます。雨水を貯水して生産に使用し、ミュンジンゲンの自社施設周辺の牧草地を保護して生物多様性を増進しています。



認証

2018年以来、当社の収益の約92%以上を占めるUSMハラーとUSMキトスMは、Cradle to Cradle®認証を受けています。これは、世界最先端の科学的尺度に従って、健康的で公正かつ持続可能な未来を実現する製品を設計・製造するための世界的な多属性基準です。

この認証では、材料の健全性、製品のサーキュラリティ、清浄な空気と気候の保護、水と土壌の管理、社会的公平性という5つの重要分野において製品が厳格に評価されます。

USMハラーとUSMキトスは、2007年以来UL GREENGUARD Gold認証も取得しています。この認証を取得した製品は、室内環境への影響を最小限に抑えるための製造プロセスのレビューと定期的な試験の対象となります。これには、追加の化学物質に対する健康基準が含まれており、製品が学校や医療施設などの環境で使用できることを保証するために、VOCの総排出レベルを低減する必要があります。





資材の透明性

当社の資材は、品質、耐久性、モジュール性という重要な設計原則をサポートするよう選択されています。

2021年、当社の最大の鉄鋼サプライヤーは自社の鉄鋼に26.1%のリサイクル原料を使用し、うち98.7%がプレコンシューマ材、1.3%がポストコンシューマ材でした。

2022年、当社はCO₂削減スティールを試用に成功したことから、2024年から当社のスティール供給量の20%に充当させる予定です。

USMのスティールチューブとフレームは三価クロムメッキされており、引っかき傷に強く、耐腐食性があります。三価クロムは自然環境中に存在する微量元素です。

資材	主な用途	リサイクル原料含有率	リサイクル可能性	製品ラインごとの材料量（重量）		
				USM/ハラー	USM/ハラーテーブル	USMキトス
スティール	耐久性、安定性、外観	26% 一次サプライヤーから	100%	97%	56%	57%
木材	寸法安定性、再生材料	0%	0%		35%	27%
プラスチック類	安定性/重量の比、可動部品の絶縁性/平滑性、追加コーティング不要	— 部分的、現時点で定量化不可能	100%	1%	8%	10%
ガラス	外観、良好なリサイクル性	0%	100%			
アルミ	軽量で優れた安定性、耐久性、正確なフィッティング/確実なケーシング	0%	100%		1%	5%
複合材料	単一材料が機能要件を満たさない場合にのみ使用	0%	0%	0.2%		0.5%
真鍮	省資源加工/仕上げ	0%	100%	1%	1.2%	
亜鉛	表面品質、省資源部品	0%	100%	0.4%		
				100%	100%	100%

人材

Johanna Schreyer
Product Marketing Manager
USM Münsingen, Switzerland

「USMの特筆すべき点は、従業員のマインドセットです。製品への情熱が皆を結びつけています。USMファミリーとして開発を行うのは楽しいです。」



長期目標

当社の目的と目標を推進し、達成するために、人材を呼び込み、関与させ、動機づけ、維持します。

概観

重要な指標

11.1

平均雇用年数
(スイス本社では15.2年)

33

正社員の国籍数

86%

認定済み、または第三者評価済みの男女賃金平等

25%

女性社員の比率

75%

男性社員の比率

雇用主としての責任

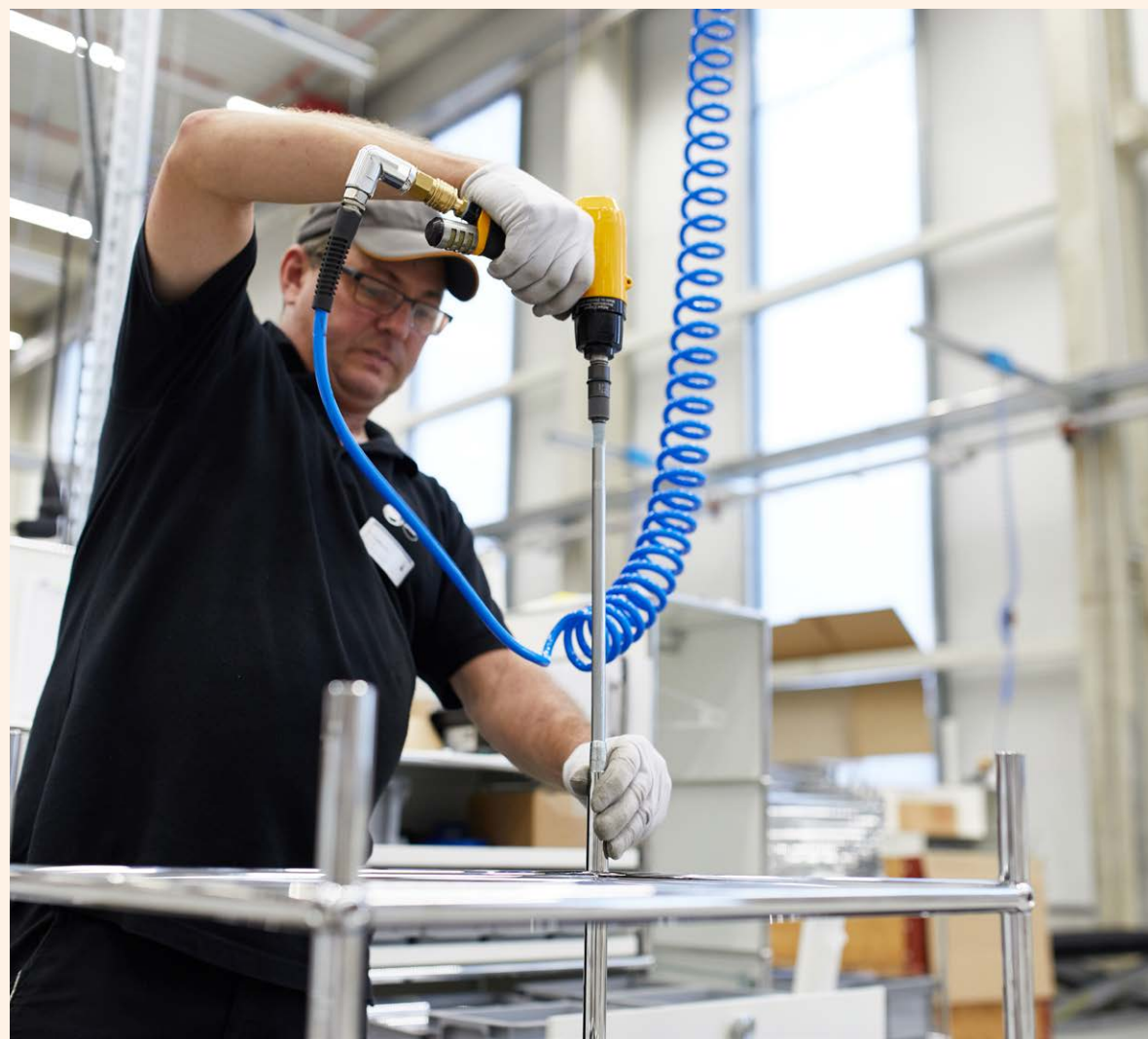
全世界のUSMの平均勤続年数は11.1年です（スイス本社では15.2年）。当社は人権を重視し、あらゆる職場環境において相互尊重と寛容を育むことを目指しています。これは、当社の男女賃金平等への取り組みにおいて特に顕著です。全従業員の86%について男女賃金平等は公式に認定されている（スイス）か、信頼できる第三者の報酬ツールで評価されています（ドイツ）。

学習と開発

当社の従業員は、完全なサーキュラービジネスというビジョンを実現するための基盤です。

組織全体のサステナビリティについての初期理解および継続的理解を把握し、関心のある分野と好ましい学習方法を調査するために、2つの従業員アンケートを実施しました。これを通じて、将来的な知識共有とベストプラクティスに役立つ洞察が得られました。

2021年には、サステナビリティのための社内ナレッジハブを立ち上げました。すべての従業員がサステナビリティの知識を身につけるための、主要概念とサーキュラーエコノミーに関する情報がこれに含まれています。ナレッジハブは、継続的な学習を可能にするため、アイデア、質問、懸念事項に対する直接のフィードバックチャンネルを提供しています。





地域における責任

当社では常に、より広範なコミュニティをサポートする方法を模索しています。当社の非営利慈善団体FONDATION USMは、文化、芸術、建築、デザイン、音楽、スポーツ、教育、科学の分野で個人や組織を支援・サポートしています。USM Design Grantは、イノベーションの促進を目的として、ジュネーブ造形芸術大学とローザンヌ州立美術大学の学生に毎年交互に授与されます。

また、依存症と闘ってきた人々がやりがいのある仕事に復帰することを支援するSüdhang Arbeitsintegration & Handels AGとも協力関係を継続しています。ベルンのSüdhang ClinicはUSMの正規セカンドハンドパートナーです。USM製品は丁寧に分解・整備され、高品質な中古家具として市場に戻ります。



südhang

FONDATION
ATTION
USM



サーキュラリティ

Lukas Kammermann
Sales Director Switzerland
USM Münsingen, Switzerland

「サーキュラービジネスモデルは、当社の過去、現在、未来の顧客に興味深い機会を数多く提供します。これはUSMにとって自然な進化であり、自宅やオフィスの家具を購入し使用する方法を見直すのに役立ちます。」



長期目標

全ビジネス分野における
完全なサーキュラリティ

バージン原料の使用を削減する

より責任ある消費を奨励する

重要な指標

100%

サーキュラーエコノミーの原則に
沿って設計された製品*

100% 長寿命

100% 再利用性

99% 修理可能性

2.1% 再生可能材料

93.5%

Cradle to Cradle 認証を受けた
製品ラインの割合 (収益別)

概観

* エレン・マッカーサー財団のCircularity指標に基づく

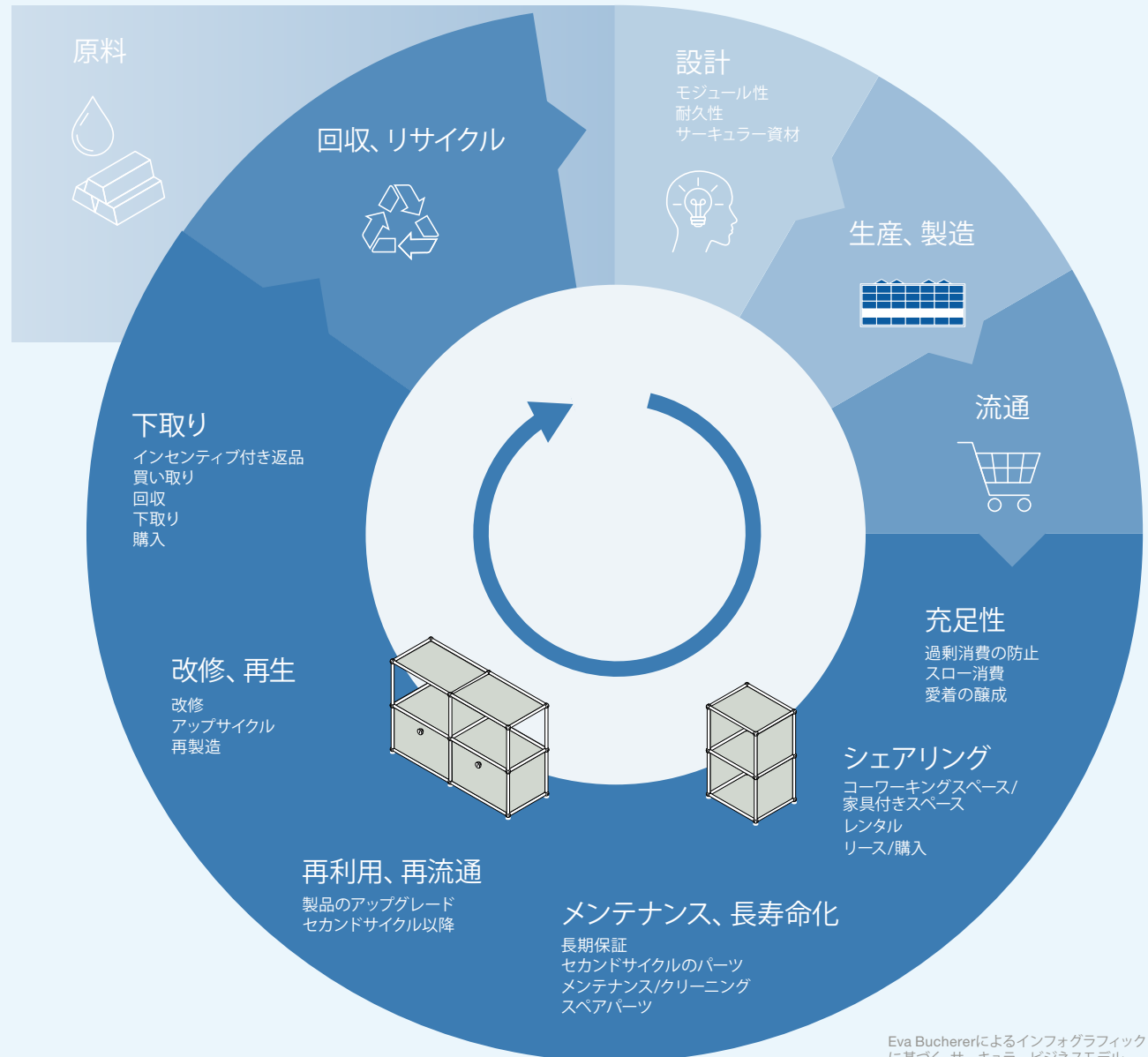


完全なサーキュラリティ

最初のサステナビリティレポートでは、完全なサーキュラービジネスを実現するという当社の目標を説明するために、このインフォグラフィックのオリジナル版を公開しました。2022年、当社の事業と利害関係者に対するリスク、機会、適合性をより深く理解するために、独立した第三者によるサーキュラービジネスモデルのレビューを実施しました。

新しいこのインフォグラフィックは、USMおよびより広い家具セクターで採用可能なさまざまなサーキュラービジネスモデルに関する当社の考えを反映しています。サステナビリティレポートとロードマップの目的は、より広い文脈でのより迅速な進歩と協力を促進するために、当社の考え方を明確にすることです。

USMは、1960年代にモジュラーファニチャーの製造を開始して以来、モジュール性と耐久性というサーキュラーデザインの原則に従って歩んできました。現在、他のサーキュラービジネスモデルがUSMと顧客、そしてパートナーにとって適切かどうか、またどのように機能するかを検討中です。当社の家具は世代を超えて使用可能な品質と柔軟性を有しており、当社は、この可能性を最大限に活かしたいと考えています。次回のレポートでは、さらに多くの調査結果を公表予定です。



Eva Buchererによるインフォグラフィックに基づく、サーキュラービジネスモデル



Viktoria Yin
General Manager China
USM Shanghai, China

「中国のデザインコミュニティにおけるUSMの地位を確立する中で、顧客が再利用と再設計を取り入れたいと考えていることが判明しています。スイス品質のモジュラー家具システムUSMハラーは、この要望に応えるもので、市場でサーキュラーソリューションの可能性を探るのを楽しみにしています。」



Ed Parker
USM customer

ケーススタディ -

家族のニーズに 合わせた変化

建築家のエド・パーカーとバーバラ・パーカーは、ニューヨーク市ブルックリンにある1900年代のアパートメントに暮らしています。ふたりは2015年にアパートメントの正面を改装して入居し、レコードコレクションとエンターテインメントのニーズに合わせてUSMハラーの収納家具を設置しました。「その後、子供たちのために再度リノベーションを行いました」とバーバラは語ってくれました。アパートの中心にあった第二のリビングルームをキッチンにして、新たに子供部屋を作りました。

このリノベーションの際、USMハラーのモジュラーシステムの柔軟性のおかげで、彼らは収納家具の機能と大きさを変更することができました。2015年から使っているUSMハラーのアイテムを組み合わせ、USMのデザインスペシャリストと協力してパーツを追加しながら家族全員で使用できる大きな壁面収納システムを実現。収納家具を買い替えずに済みました。USMが誇る後方互換性と仕上げの耐久性で、外観も機能もシームレスに、古い製品に新しいパーツを組み合わせて拡張することができました。

エドは、チューリッヒで建築を学んでいた際にUSMに出会い、その進化の可能性に興味を惹かれました。彼はこう言いました。「もし引っ越したら、他にどんな使い方をしようか、よく考えていました。形やサイズを変えても、ずっと使っていけるものだと思います。」

「形やサイズを変えても、
ずっと使っていけるものだ
と思っています。」



re
design



ケーススタディ -

家族のニーズに合わせた変化

既存のUSM ハラーを再利用することで、ふたりは同等の家具を新品で購入する場合と比べて369kgものCO_{2e}*を削減しました。生まれ変わったレコード収納の47%は再利用された家具で構成されています。



* 企業としての二酸化炭素排出量を、製品の総重量（梱包材を除く）に再利用された製品部品の重量を乗じた値で割った値に基づく。

USMについて

Dr. Judith Stuber-Schärer
Member of the Board
and Co-Owner of USM

「当社は、私たちのビジネスのためにサ
ーキュラリティとサステナビリティにお
いて次のレベルを目指していることを誇
りに思っています。半世紀以上にわた
って愛され続けてきた当社の製品を、
環境への影響を最小限に抑えながら次
の世代にも利用してもらえよう、でき
ることをやっています。」



1885年の創業以来、USMIは製品デザインにおける革新と不変の美学を守り続けてきました。現在も同族経営の企業として、可能性の限界を超えていくための揺るぎない取り組みを続けています。USMIが受け継いできたものは、製品だけではなく、それが作り出す空間にもあります。ワークスペースをコラボレーションの場に変えたり、家を居心地の良い場にしたり、USMIは世界中の人々の生活に欠かせない存在となっています。

モジュール性、耐久性、タイムレスなデザインという原則が、当社の継続的な成長と成功をもたらしてきました。これは常に当社の哲学の中核にあり、使い捨てのデザインという考えから離れてUSMIの家具は何世代にもわたって使い続けられるよう設計されています。当社は、サーキュラーエコノミーの原則を採用し、すべてのUSMI製品がその寿命を通じてインスピレーションを与え機能し続けることを保証します。私たちのビジョンは、この原則を全社的に応用して、完全なサーキュラービジネスを実現することです。

サステナビリティに対する当社のアプローチと完全なサーキュラリティ実現への進捗状況に関する最新情報については、次のサイトをご覧ください。www.usm.com/sustainability



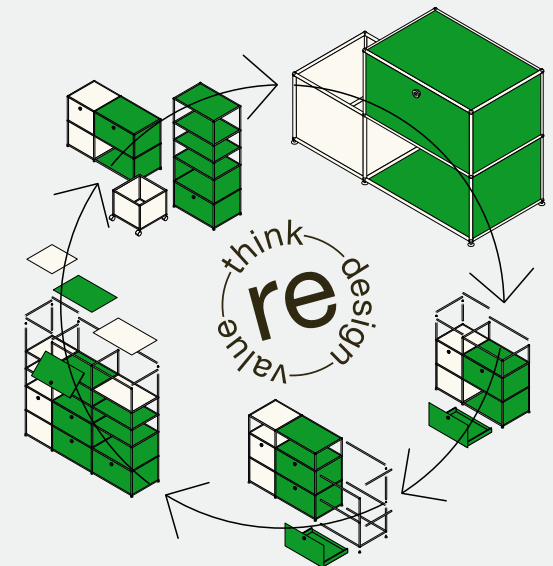
Alexander SchärerとJudith Stuber-SchärerはSchärer家の四代目で、1885年に曾祖父が創業した会社を率いています。



USMIハラー - 変容を基本原則とする永続的なフレームワーク。



USMIハラーは2001年、ニューヨーク近代美術館(MoMA)のパーマネントコレクションに加わりました。



Ian Weddell
Sustainability Executive
USM Group

「適応性と耐久性という基本理念は、科学に基づいた目標に沿って二酸化炭素排出量の削減に取り組む中で、USMの立場を明確にします。USMの家具を長期利用可能にすることを通じてサーキュラーエコノミーを推進するために今後何をすべきかが、当社が取り組むべき課題です。非常に楽しみな取り組みです。」

用語集

炭素; 炭素排出量;
CO₂; CO₂相当; 排出ガス;
温室効果ガス
(GHG) の排出

このサステナビリティレポートにおいて、これらの用語はいずれも、CO₂換算の京都議定書の対象となる6種類の温室効果ガス、つまり二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、亜酸化窒素 (N₂O)、ハイドロフルオロカーボン (HFC)、パーフルオロカーボン (PFC)、および六フッ化硫黄 (SF₆)、(GHGプロトコル企業標準に従って計算) を指します。¹

サーキュラービジネス
モデル; サーキュラー
ビジネス

一般に、「サーキュラービジネスモデル」とは、サーキュラーエコノミーの原則を特定の方法で実装するビジネスモデルを指します。「サーキュラービジネス」はサーキュラービジネスモデルを採用するものです。

サーキュラー設計原則

このサステナビリティレポートにおいて、「サーキュラー設計原則」とは、サーキュラーエコノミーの三原則を可能にする設計を指します。(a) 設計の上流で廃棄物と汚染を排除する。(b) 可能な限り長く、高価値で使用可能となるように資材や製品を設計することで循環させる。(c) 地域の生物多様性、大気、水質を改善するように設計することで自然を再生する。²

サーキュラーエコノミー

「サーキュラーエコノミー」は、製品や資材が、その元となった資源とともにできるだけ長く経済内に維持されるという考えに基づき、理想的には廃棄物と温室効果ガスの排出を防止するか、少なくとも廃棄物と温室効果ガス排出量を削減します。³

サーキュラーエコノミー
原則

「サーキュラーエコノミー原則」とは、一般に、循環経済を目指す経済が従う原則のことです。これらの原則には、再利用、再製造、リサイクル、回収できるように製品や資材を設計することが含まれます。⁴ さらにサーキュラーエコノミー原則として、特にシェア、リース、修理が挙げられます。⁵ これらの原則により製品のライフサイクルを延長し、製品が寿命に達した場合は、その資材を可能な限り経済のサイクル内に維持するものとします。⁶

サーキュラー資材

「サーキュラー資材」とは、有限の材料 (地質学的タイムスケールではなく、経済的タイムスケールでは再生不可能な材料) を経済内かつ環境外に維持するか、生分解性材料を安全に土壌に戻すか、再生可能材料 (枯渇速度以上の速度で継続的に補充される材料) を使用することによって、エンベディッドバリューを維持するために循環できる材料を指します。⁷

サーキュラリティ

このサステナビリティレポートにおいて「サーキュラリティ」という用語は、USMのサーキュラーエコノミー原則を採用および強化することによる、USMのサーキュラービジネスモデルの開発と応用を指します。

CO₂削減スティール

このサステナビリティレポートにおいて、「CO₂削減スティール」という用語は、「従来よりも排出量が大幅に少ない技術と慣行で製造された」スティールを指します。⁸

エネルギー効率

「エネルギー効率」という用語は、一般に、入力されたエネルギーに対する、出力された実績、サービス、商品、またはエネルギーの比率を指します。⁹

ポストコンシューマ
リサイクル

「ポストコンシューマリサイクル」材は、一般に、エンドユーザーによって使用された後にリサイクルされた資材です。¹⁰

プレコンシューマ
リサイクル

「プレコンシューマリサイクル」材は、一般に、生産プロセス中の廃棄物からリサイクルされた資材です。¹¹

リサイクル可能性

「リサイクル可能性」という用語は、一般に、当初の目的を果たした後も有用な物理的または化学的特性を保持しており、追加の製品に再利用または再製造できる材料の特徴を指します。¹²

リサイクル; リサイクル
された

「リサイクル」とは、一般に、当初の目的か他の目的を問わず、廃棄物または製品を材料、製品、または物質に再処理するあらゆる回復作業を指します。¹³ 「リサイクルされた」製品または材料とは、そのような回復作業を経た製品または材料を指します。

再生可能材料

「再生可能材料」という用語は、一般に、自然に再生成長する能力を有する材料 (例: 木材) を指します。

修理可能性

「修理可能性」という用語は、一般に、製品に損傷または欠陥がある場合に修理できる可能性を指します。

責任ある消費

「責任ある消費」とは、一般に、自らが消費する製品について熟考して決定する態度のことです。¹⁴ 意思決定のプロセスには、社会的、環境的、倫理的影響を考慮することが含まれます。¹⁵

責任ある製造

「責任ある製造」とは、一般に、環境的、社会的、倫理的影響を考慮したプロセスによる商品やサービスの製造を保証することです。¹⁶

再利用性

「再利用性」という用語は、一般に、製品またはその部品を再度使用できる可能性を指します。¹⁷

科学に基づいた目標

「科学に基づいた目標」という用語は、Science Based Targets イニシアチブによって提供される枠組みを指します。この枠組みは、「気候変動による最悪の結果を防ぐために、企業や金融機関が温室効果ガス (GHG) の排出をどれだけ削減する必要があるかを示す」ものです。¹

サステナビリティ

「サステナビリティ」という用語は、一般に、将来の世代が自らのニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たすことを意味します。¹⁸ 「コーポレート・サステナビリティ」という用語は、企業の価値体系と、原則ベースのビジネスアプローチからスタートします。これは、少なくとも人権、労働、環境、汚職防止の各分野における基本的な責任を果たせる方法で運営することを意味します。¹⁹

持続可能な製造と消費

「持続可能な製造と消費」という用語は一般に、経済的、環境的、社会的利益のバランスが取れた関係によって、現在および将来の世代の生活の質と福祉を守る方法での商品の生産と消費を指します。²⁰

¹ <https://ghgprotocol.org/sites/default/files/standards/ghg-protocol-revised.pdf>

² <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/introduction-to-circular-design/we-need-to-radically-rethink-how-we-design>

³ https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular_economy_14_march.pdf

⁴ https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular_economy_14_march.pdf

⁵ <https://www.europarl.europa.eu/news/en/headlines/economy/20151201STO05603/circular-economy-definition-importance-and-benefits>

⁶ <https://www.europarl.europa.eu/news/en/headlines/economy/20151201STO05603/circular-economy-definition-importance-and-benefits>

⁷ <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/circulate-products-and-materials>

⁸ <https://worldsteel.org/media-centre/blog/2021/blog-low-carbon-steel-meaning>

⁹ Directive 2023/1791/EU Art. 2(8)

¹⁰ Circular Plastic Alliance (CPA) 3ページの「post-consumer material」の定義を参照

¹¹ Circular Plastic Alliance (CPA) 3ページの「pre-consumer material」の定義を参照

¹² <https://www.eea.europa.eu/help/glossary/gemet-environmental-thesaurus/recyclability>

¹³ 指令 Directive 2008/98/EC Art. を参照 3(17)

¹⁴ <https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12-Fast-Facts.pdf>

¹⁵ <https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12-Fast-Facts.pdf>も参照

¹⁶ see also: <https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12-Fast-Facts.pdf>も参照

¹⁷ 指令 Directive 2005/64/EC Art. 4(13)

¹⁸ <https://sciencebasedtargets.org/about-us>

¹⁹ <http://www.un-documents.net/our-common-future.pdf> 1.3.27

²⁰ <https://unglobalcompact.org/what-is-gc/mission/principles#:~:text=Corporate%20sustainability%20starts%20with%20a,%2C%20environment%20and%20anti%20corruption>

²⁰ <https://social.desa.un.org/2030agenda-sdgs>も参照



スイス

USM U. Schärer Söhne AG
Thunstrasse 55, 3110 Münsingen
電話 +41 31 720 72 72, info.ch@usm.com

ドイツ

USM U. Schärer Söhne GmbH
Siemensstraße 4a, 77815 Bühl
電話 +49 7223 80 94 0, info.de@usm.com

フランス

USM U. Schärer Fils SA, Showroom
23, rue de Bourgogne, 75007 Paris
電話 +33 1 53 59 30 37, info.fr@usm.com

英国

USM U. Schaerer Sons Ltd., London Showroom
Ground Floor, 49–51 Central St., London, EC1V 8AB
電話 +44 207 183 3470, info.uk@usm.com

米国

USM U. Schaerer Sons Inc., New York Showroom
28–30 Greene Street, New York, NY 10013
電話 +1 212 371 1230, info.us@usm.com

日本

USM U. シェアラー・ソンス株式会社
本社/ショールーム
〒100-0005東京都千代田区丸の内2-1-1
丸の内MY PLAZA1・2F
電話 +81 3 6635 9420, info.jp@usm.com

中国

USM U. Schärer Söhne AG
Room 112, 02/F, Building 11,
No. 696 Weihai Road, Jing'an District, Shanghai, PRC
電話 +86 21 63730018, info.cn@usm.com

その他の国については、USMスイス本社にお問い合わせください。

www.usm.com

Thank you

このレポートが、対話のきっかけになることを願います。
アイデアをお寄せください。

sustainability@usm.com

本レポートは以下の皆様のご協力のもと作成されました。

Sustainability responsible at USM: Ian Weddell; Dr. Thomas Dienes
Carbon auditing: ClimatePartner
Sustainability consulting: Susanne Conway, Sirkel Consulting
Copywriting and editing: Jenni Bacon
Layout and graphics: P'INC. Communication Design

本レポートはデジタル版のみです。
2024年4月